

中学校第1学年 英語科 学習指導案

期 日 平成 28 年 10 月 27 日(木)第 5 校時
 場 所 合志市立合志中学校 1 年 3 組教室
 指導者 教諭 松崎 真理子

1 単元名

「Unit 6 オーストラリアの兄」 (New Horizon 東京書籍 p.66~71)

2 単元について

(1) 単元観

この単元は登場人物咲の兄(春樹・オーストラリア在住)を紹介する場面であり、豊かな自然に恵まれたオーストラリアの魅力に触れられるようにしてある。

話の中で現地の友人に日本語を教えるなど、積極的に留学生生活を満喫する春樹の姿を通して、「英語を使って世界で生きる」モデルを示すこともねらいとしている。

また、文法としては第三者のことを紹介するという場面を通して、三人称単数現在形について効果的に導入できるようになっている。

(2) 系統観

①言語材料の系統性

Hi, Friends!2	New Horizon 1			New Horizon 2	New Horizon 3
Lesson 3 自分を紹介しよう	Unit 3 I like math. Do you play the piano? I do not play baseball.	Unit 5 (本時) Haruki lives in Australia. Does Haruki live near a beach? Haruki does not talk about animals.	Unit 11 I watched TV every day. I came to school early this morning. Did you travel this winter?	Unit 2 I am going to visit ~ Unit 4 I will show you some pictures tomorrow.	Unit 2 I have lived in Japan for a month.

②言語活動の系統性

第1学年	第2学年	第3学年
○家族・友だち・ペットの紹介(本時) ○学校紹介 ○グリーティングカード ○一日の生活	○日記 ○夏休みの思い出 ○地域紹介 ○好きなこと、行ってみたいところ ○修学旅行記 ○夢のロボット	○日本文化紹介 ○自分史作成 ○なりたい職業
○自己紹介		

小学校の時には第三者を紹介する場面は学習していないが、自分自身を紹介し、相手のことを” You can swim.” と書いてあるカードを使用してゲームをすることで、第三者の紹介をすることとなっている。また、1年生では、自分自身のことを Unit 3 で紹介し、Unit 5 で第三者を紹介する文(本時)を学習し Unit 11 では過去形を学習する。さらに2年生では未来形 be going to と will を学習し、3年生では have+過去分詞を学習していく。

(3) 生徒観

男子 22 名、女子 17 名、計 39 名のクラスである。少人数は、基礎・基本コース 10 名、発展コース 29 名と二分し、検証授業では発展クラスでの授業を行う。全体的には、素直でまじめであり、コツコツと頑張る集団である。しかし、挙手・発表等自分の意見を全体の場で発表したりすることが苦手な生徒も多い。

レディネステストより、半分以上の生徒が英語の活動では「書く活動」が好きであると回答している。また、約 4 割の生徒が友達と協力して学習することが「好き」である。文法としては、肯定文から疑問文への書き換えができていない生徒が多いので、徹底していく必要がある。

★英語学習への意識調査及びレディネステストの結果（38人/39人中 欠席 1人） ★調査日 9月14日

① あなたは英語の授業でどの活動が好きですか？（複数可）

聞く 17人（44.7%） 話す 14人（36.8%） 読む 15人（39.5%） 書く 22人（58.9%）

② あなたは友達と協力してする活動が好きですか？

好き 15人（39.4%） 普通 15人（36.8%） 好きではない 8人（7.9%）

③ 次の（ ）から適切な語を選び○で囲みなさい。

(1) I like tennis. 34人(89.4%) (2) You do not like math. 31人(81.6%)

(3) Do you like English? 37人(97.4%)

④ 次の文を疑問文にしなさい。

(1) You play soccer. 30人(78.9%)

⑤ 次の文を否定文にしなさい。

(1) I like tennis. 34人(89.5%)

(4) 指導観

- アンケートより「書く活動」が好きな生徒が多いので、授業の中に必ず「書く活動」を設けていく。
- レディネステストより肯定文から疑問文、否定文への操作ができない生徒がいるので、Pattern practice や Oral practice に疑問文や否定文への操作も入れていきたい。また、Writingでも練習問題等を取り入れて繰り返し学習する場面を設定したい。
- 英語に苦手意識を持っている生徒には、Writingの時間にヒントカードを準備しておく。
- アクティブ・ラーニングの視点より、個の時間・ペア学習の時間・グループの時間を設け、個の時間と協働の時間のけじめをきちんととり、「ペア」「グループ」活動では「協力」「助け合い」の精神を育てていきたい。
- 自己肯定感の低い生徒が多いので、コミュニケーション活動が苦手な生徒に対しては、机間指導等で手立てやきっかけ作りをアドバイスしていく。また、全員発表、ほめ・認める場面を積極的に作っていききたい。

学びを引き出す

学習活動を生む
「問い」の工夫
(言語活動の充実)

①既習の文法を使用してペアでの活動やインタビューを行うことで、自分の考えを伝え合うことができるコミュニケーション力の育成に努める。

②自分の考えや情報をペアやグループ内の友達と共有することで、協働的な解決に向かう学習になるようにする。

学びを振り返る

思考過程の可視化と
学びの振り返り

③生徒個人の答えや情報とグループでの協議後の答えや考えを比較できるようなワークシートを用いることで、考えの変容が見取れるようにする。

④授業の最初と最後にCAN-DOリストを利用し、目的を持って学習に取り組み、また自己評価を行うことで、「学びの振り返り」ができるようにする。

学びを支える

学びのUD化とICT
の活用及び支持的風土

⑤授業の始めに「授業の流れ」を提示することで、生徒が学習の流れに見通しを持って取り組めるようにする。

⑥文字や音声だけでなく、写真や実物、またCDやピクチャーカードなどを多用することで、すべての生徒が興味・関心を持って課題解決に取り組めるよう工夫する。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標		○自分と相手以外の人やものなどについて話すことができる。 ○自分と相手以外の人やものなどについて尋ねることができる。	
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①自分と相手以外の人 の情報を積極的に伝えたり、尋ねたり、答えようとしている。	①自分と相手以外の人について話したり、尋ねたり、答えたりすることができる。 ②自分と相手以外の人について内容的にまとまりのある文章を書くことができる。	①話し手の自分と相手以外の人について紹介を聞いて、その情報を聞き取ることができる。	①三人称単数現在形の形・意味・用法に関する知識を身につけている。

4 指導・評価の計画(7時間取扱い 本時5/7)

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 自分と相手以外の人(先生)についての紹介をする。(肯定文)	【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】① (観察・ワークシート) 【学びを引き出す】 ②自分の「考え」や「情報」をペアやグループ内の友達と共有することで、協働的な解決に向かう学習になるようにする。 【学びを振り返る】 ④授業の最後に CAN-DO リストに基づく自己評価シートを活用し、単元を通してどのような力を付けていくのか見通しを持つことができるようにする。 【学びを支える】 ⑤授業の始めに「CAN-DO リスト」や「授業の流れ」を提示することで、生徒が学習の流れに見通しを持って取り組めるようにする。
	2	2 Unit 6 - 1 の本文の内容を理解する。	【英語理解の能力】①(ワークシート) 【学びを振り返る】 ④授業の最後に CAN-DO リストに基づく自己評価シートを活用し、単元を通してどのような力を付けていくのか見通しを持つことができるようにする。
二	3	3 自分と相手以外の人(先生)について尋ねたり、答えたりする。(疑問文)	【英語表現の能力】①(発表・ワークシート) 【学びを引き出す】 ①既習の文法を使用してペアでの活動やインタビューを行うことで、自分の考えを伝え合うことができるコミュニケーション力の育成に努める。 【学びを振り返る】 ④授業の最後に CAN-DO リストに基づく自己評価シートを活用し、単元を通してどのような力をつけていくのか見通しを持つことができるようにする。 【学びを支える】 ⑤授業の始めに「CAN-DO リスト」や「授業の流れ」を提示することで、生徒が学習の流れに見通しを持って取り組めるようにする。

	4	4 Unit 6 - 2 の本文の内容を理解する。	<p>【英語理解の能力】①(ワークシート)</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④授業の最後に CAN-DO リストに基づく自己評価シートを活用し、単元を通してどのような力を付けていくのか見通しを持つことができるようにする。</p>
三	5 本時	5 自分と相手以外の人(先生)についての紹介をする。(否定文)	<p>【英語表現の能力】②(観察・ワークシート)</p> <p>【言語や文化についての知識・理解】①(ワークシート)</p> <p>【学びを引き出す】</p> <p>②自分の考えや情報をペアやグループ内の友達と共有することで、協働的な解決に向かう学習になるようにする。</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④授業の最後に CAN-DO リストに基づく自己評価シートを活用し、単元を通してどのような力を付けていくのか見通しを持つことができるようにする。</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>⑥生徒個人の答えや情報とグループでの協議後の答えや考えを比較できるようなワークシートを用いることで、考えの変容が見取れるようにする。</p>
	6	6 Unit 6 - 3 の本文の内容を理解する。	<p>【英語理解の能力】①(ワークシート)</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④授業の最後に CAN-DO リストに基づく自己評価シートを活用し、単元を通してどのような力を付けていくのか見通しを持つことができるようにする。</p>
四	7	7 ALT のスペンサー先生に「合志中の先生たちを紹介 book」をプレゼントする。	<p>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】① (観察・ワークシート)</p> <p>【言語や文化についての知識・理解】①(ワークシート)</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④授業の最後に CAN-DO リストに基づく自己評価シートを活用し、単元を通してどのような力を付けていくのか見通しを持つことができるようにする。</p> <p>【学びを支える】</p> <p>⑥写真やピクチャーカードなどを多用することで、すべての生徒が興味・関心を持ち、課題解決に取り組めるよう工夫する。</p>

5 本時の学習

(1)目標

- ・自分と相手以外の人について、まとまりのある文章(4文程度)を書くことができる。
- ・三人称単数現在形の形・意味・用法に注意して文を書くことができる。

(2)展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 8分	1 Greeting(一斉) 2 Warm Up (ペア) すらすら音読	○英語の授業の雰囲気をつくる。 ○答える方はできるだけ教科書を見ないで答えるようアドバイスする。	
展開 37分	3 本時のめあてをつかむ(一斉)(ペア) (1) Today' s CAN-DO リストを確認する。 (2) Review 6-1, 6-2 ①本文の確認 ②例文に入れ替え確認 ③疑問文での練習 T: Does Ms.Sawatari like music? S1: Yes, she does. She likes music. T: Does she like cookies? S1: No, she doesn' t. She (doesn' t) like cookies. (3) Today' s Key Sentences を確認する。 (4) Pattern Practice (doesn' t) 単元終末での目標	視点3【学びを支える】授業の流れを提示し、生徒が見通しを持ち、活動できるようにする。 ○CAN-DO リストを使用し、本時の流れを確認する。 ○前時の教科書本文と実際の例文と入れ替えて練習する。 ○英語で質問し、分からない場合はゆっくり言ったり、写真を活用したりして、ヒントを与える。 ○必ず答え+1とし、2文で答えを言うようにする。 ○()内をペアでの話し合いで引き出す。	流れ CAN-DO リスト 写真 例文 ワークシート
自分と相手以外の人について、まとまりのある英文(4文程度)を書くことができる。			
学習目標(めあて)			
三人称単数現在形の否定文を使って、ALT の先生に合志中の先生たち紹介を作成しよう。			
	<p>【言語活動】(設定の意図)</p> <p>英語を使用しながら、対話的な活動を通して、自分の情報と友達の情報共有し、教え合い等を行いながら解決に向かう学習ができるようにする。</p> <p>4 これまで書き上げた先生の紹介文に、新たに三人称単数現在形の否定文を書き加えるとともに、文章を再構成する。(個、ペア、グループ)</p> <p>(1) 紹介文のモデルを示す。 (2) 先生方から聞いたインタビュー内容を確認し、否定文を考える。 (3) 否定文を加え、これまで書き上げた先生の紹介文を再構成する。 (4) 書き上げたものをペア(グループ)で意見交換しながら、修正及び改善を図る。</p>	<p>徹底指導(ポイント)</p> <p>doesn' t の用法を理解し、紹介文を作成できるようにする。</p> <p>視点1【学びを引き出す】既習の Does ~? を使って友達にインタビューをし、新出文型 doesn' t を用いて全員が積極的に活動できるように支援する。</p> <p>○ペアで確認し、読み手に分かりやすい文章に構成していく。 ○黒板を使用しながら確認をしていく。机間支援で間違いが多かった部分は丁寧に確認をする。 ○これまでの先生の紹介文を短冊で示し、否定文を入れ方や文と文のつながりを持たせた紹介文のモデルを示す。 ○今まで使用したワークシートや Activity で作った英文を参考に文を作成する。</p>	

	<p>Hello everyone. I' m ○○. Look at this picture. This is Mr. Matsumoto. He is our math teacher. He likes cars. He likes tennis. Do you like tennis? I like tennis, too. But he doesn' t like baseball. He doesn' t like goya and natto. Thank you for listening.</p> <p>Does he like baseball? No, he doesn' t. 【A評価 の例】</p>	<p>【学びを引き出す】 お互いの意見や考えを伝え合い、ALT の先生に分かりやすい紹介文にする。</p> <p>能動学習(ポイント) ペアやグループで先生紹介文を読み合い、ALT の先生に分かりやすい(読み手に伝わるように)内容になるように互いにアドバイスしながら、さらに自分の紹介文を修正及び改善し、再構成していく。</p> <p>視点2【学びを振り返る】 友達からのアドバイスをもとに、さらにお互いの文章をより説得力のあるものにするためのポイントをもとに修正及び改善し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価： 【英語表現の能力】② (ワークシート) B：自分や相手以外の人についてまとまりのある文章(4文程度)を書くことができる。 【言語や文化についての知識・理解】① (ワークシート) B：三人称単数現在形の形・意味・用法に注意して文を書くことができる。</p> </div> <p>A：B基準に加え、接続詞や既習の文法を正しく使用できる。自分のことを加えることができる。疑問文等も使用できる。 〈B基準に達していない生徒への手立て〉 ○ペア活動にすることで、生徒同士での教え合い活動ができるようにしておく。</p>	<p>例文2 辞書</p>
<p>整理 5分</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。(ペア、一斉) (1) 本時の学習で学んだことを振り返る。 (2) 自己評価カードを記入する。 (3) 次時への見通しを持つ。</p>	<p>○文法のポイントを確認する。 ○CAN-DO リストを使用し、本時のまとめをする。</p> <p>視点2【学びを振り返る】授業の最初と最後に CAN-DO リストを用いて、目的を持って学習に取り組んだことを自己評価することで、「学びの振り返り」ができるようにする。</p>	<p>CAN-DO リスト 自己評価 カード</p>